

がんばる
皆さんを応援!

(有)大場養蜂園

天然のハチミツと生ロイヤルゼリー・プロポリスを生産販売する「大場養蜂園」。新庄町にある本店はもともと、江戸時代から続く米問屋・大場商店でした。ハチミツを使ったスイーツを味わうことができるカフェ38「カフェミツバチ」も花園町にあり、女性や



若者に人気です。代表取締役の大場靖弘さんにハチミツの生産・販売双方の視点から、お話を伺いました。

⑥ 祖父、父がハチミツで健康に ⑥

大場商店は大場さんが12代目です。祖父・徳次郎さんの代からハチミツを扱うようになったそうです。

「祖父は若いころ、肺結核を患って徴兵検査も通りませんでした。しかし、ハチミツを取り入れることで健康になったのがきっかけで養蜂業に乗り出しました。また、父の勤も若いころ、交通事故で脚を切断するかどうかという大けがを負った時、蜂針療法によって回復しました」

蜂針療法とは、ミツバチの針と蜂針液を利用した民間療法で、アピセラピー（ミツバチ治療法）のひとつです。



▲新庄町本店

⑥ 年々、少なくなるレンゲ畑 ⑥

当社ではハチミツを採取するため、一つに3〜4万匹のミツバチが入っている巣箱を約250箱抱え、花が咲く場所を移動します。

「以前は花を求めて九州まで行っていました。ミツバチは長期の移動に弱い。近年は富山県内を中心に、2週間ぐらいの間隔で動きまわります。魚津市の加積リンゴや、南砺市のトチ、藤などからも蜜が採取できます」

蜂が蜜を採る花で多いのは、レンゲ、アカシア、トチです。昔はレンゲ畑が全国各地にありましたが最近では少なくなりました。レンゲは、収穫が終わった秋の田んぼに植えられ、土を肥やす効果がありますが、近年は、化学肥料に取って代わられたそうです。そこで大場さんは農家にレンゲの種を配って花畑を作ってもらっています。

「レンゲを植えていただけるとありがたいし、働きかけもしています。しかし、農業施策が変わるので、難しい部分もあります。九州ではレンゲの花のシーズンが終わってから稲を植えても間に合いますが、富山はそうはいきません。休耕田を使うしかないためなかなか難しいのです」

花によってハチミツの風味や色は違います。徳次郎さんのころはレンゲ・水島柿・トチから採れたハチミツをブレンドして売っていました。しかし、勤さんは昭和末期ごろから花の種類ごとに蜜を分けて販売するようになりました。しかも大瓶ではなく、120グラム入りの小瓶に入れたのです。それが喜ばれました。

平成に入ってから、95グラム入りの瓶で販売し、平成14年に靖弘さんが跡を継いでからは40グラム入りの小瓶の商品（4500円）も出しました。「ワンコインでお釣りが来るようになってきました。ハチミツを身近に感じてもらうためです。そのころ、ハチミツを味わうという人は高齢者ばかり。若い人に味わってほしいと思ったのです。カフェ38を出したのもそのためです」



▲ハチミツ採取の様子

⑥ 若者の消費拡大を狙い／「カフェ38」オープン ⑥

「カフェ38」は平成19年、新根塚にオープンしました。クレープやパンケーキにハチミツをつけて食べることに、ハチミツの風味を楽しむことができず。美しいディスプレイや商品構成などが評価され、同年のベストショップコンテスト優秀賞を受賞しました。平成28年には花園町へ移転して再オープンし、この年にもベストショップコンテストライティング賞を受賞しています。花園町店は、駐車場を拡充し、駐車場を6台から16台に増やしました。



◀当社のハチミツをふんだんに取り入れたスイーツとドリンク

「カフェ38は、若い世代の消費拡大を狙った直営店です。今後ハチミツを使った菓子を充実させていきたいです」

ハチミツの用途拡大について、も熱心に語ってくださいました。例えば、煮物などに使うと深みのある味わいがあり、照りも出る。また、牛乳などカルシウムを含む食品と一緒に摂取すると、カルシウムの吸収が促進されるそうです。



▲カフェ38で癒しの時間をお過ごしください

大場養蜂園のハチミツは、県内の百貨店や道の駅、都内のアンテナショップでも販売されています。昨年の10月には秋葉原で行った「地域うまいもんマルシェ」にも出展いただきました。大場さんによると土産物としては、水島柿のハチミツの人氣が高いそうです。糖度が高い柿の美と同じように、甘みの強い蜜の味があります。ハチミツについて知ると、富山の農業や自然についても考えがきっかけになります。頑張っておられる大場社長を当所はこれからも応援します！

有限会社大場養蜂園
新庄町本店
 富山市新庄町1-17-33
 ☎076-432-2689

カフェ38
 富山市花園町1-1-32
 ☎076-481-8770